

令和7年度 福岡県 英語教育改善プラン

目標

- 英語で進める、コミュニケーションの目的、場面、状況などを明確にした言語活動中心の授業づくり
- 児童の4技能5領域（2技能3領域）をバランスよく育成する指導と評価の充実

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①ALTを含む指導者と児童、児童同士のやり取りを位置付けた授業展開が増加

②パフォーマンステストを定期的に実施
 パフォーマンステストの回数
 小5 (R5:8.7回)
 小6 (R5:9.3回)

未だ改善が必要な点

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標について、中学校との接続を意識した改善
 中学校と接続している学校
 (R5:77.9%)

②5、6年生の授業における、慣れ親しんだり身に付けたりした言語材料を繰り返し活用する学習過程の工夫に課題
 学習者用デジタル教科書の活用
 小5 (R5:66.1%)
 小6 (R5:66.1%)

2. 要因分析

①言語活動の質の向上に係る情報共有（指導主事等研修会）
 ⇒各地域での働きかけが増加

②パフォーマンステストの行い方、工夫についての周知事項を共有（指導主事等研修会）
 ⇒各地域での共通理解が進んだ

①各学年の学習のゴール像の明確化及び学年間のつながりを意識した授業構想が十分でない授業があること

②学習者用デジタル教科書の活用状況において、学校・学級間差が見られ、効果的な活用の仕方や効果を共有できていないこと

3. 目標を達成するための施策・事業

①-1、② 継続的な好事例の収集及び研修会における情報共有

指導主事等研修会で、各地域における実践事例や指導助言の在り方についての協議・演習を行う。

①-2 一定の英語力を有する小学校教師の新規採用の推進
 一定の英語力を有する小学校教師の新規採用のため、教員採用候補者選考試験において英語有資格者に、第一次試験の専門教科の得点に点数加算を行う。

①中学校の取組を生かした授業改善の促進

中学校英語教育改善の方向性として示している「言語活動821プロジェクト」を参考に、小学校における日常的な授業改善の促進に生かせるよう、各地区の指導主事と取組事例を共有する。

②県教育委員会作成資料の活用

令和6年度に作成・配布した「お役立ち！小学校外国語学習者用デジタル教科書活用ガイド」の活用促進を図り、各学校においてデジタル教科書を効果的に活用できるよう支援する。

※「言語活動821プロジェクト」

言語活動の時間8割以上、デジタル教科書の活用週2回以上、Small Talk週1回以上に取り組むことで生徒・教師の英語力向上をめざすプロジェクト

令和 7 年度 福岡県 英語教育改善プラン

英語で進める即興性・発展性を重視した言語活動中心の授業づくり 学習者用デジタル教科書を活用した新しい授業観への転換

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 (R6: 62.6%⇒R7: 63.0%)

○CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合 (R6: 44.8%⇒R7: 50%)

目標

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他 (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加した。(62.6%)
※昨年度比 +11.3ポイント
- ②授業の50%以上で英語を使用して言語活動を実施している英語教員の割合が増加した。(91.7%)【県独自調査】
※昨年度比 +6.6ポイント
- ③授業の50%以上で英語を使用している英語教員の割合が増加した。(78.5%)【県独自調査】
※昨年度比 +7.1ポイント

未だ改善が必要な点

- ①CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合が増加したものの目標値に届いていなかった。(44.8%)
※昨年度比 +8.9ポイント
※目標値50%との差 -5.2ポイント
- ②英語の授業で学習者用デジタル教科書の活用を実施していない学校数が減少したものの、6校ある。
(R5: 28校 → R6: 6校)

2. 要因分析

①②③

- ・令和 6 年度から県内の中学校英語教員を対象とした外国語科（英語）授業力向上実践講座を開催し、学習者用デジタル教科書を活用した授業づくりや英語で進める即興性・発展性を重視した言語活動中心の授業づくりが進んだ。
- ・都道府県教委の研修に関する調査研究として、文部科学省「令和 6 年度学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業」の支援を受けたことで、外国語科（英語）授業力向上実践講座を効果的に進めることができた。
- ・教育事務所指導主事を中心として「（言語活動 8 2 1 プロジェクト）令和 5 年度全国学力・学習状況調査（中学校英語）結果分析を受けた英語教育の改善の方向性について」を活用した指導・助言が浸透し、言語活動中心の授業づくりが進んだ。

- ①英語能力に関する外部試験を受験するかどうかの判断は個人の判断によることや受験料がかかることから、取得者の人数を増加させることが難しい。
- ②学習者用デジタル教科書の具体的な活用方法が分からないために、授業の中で生徒に活用させることを躊躇する教員がいる。また、そもそも学習者用デジタル教科書を使用するためのハード面の準備ができていない学校が未だ存在している。

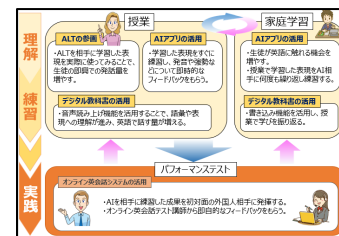
3. 目標を達成するための施策・事業

①②③AIを活用した英語授業モデルの構築事業

○英語で進める即興性・発展性を重視した言語活動中心の授業づくりをさらに進め、生徒の英語力を向上させるために、標記事業を実施する。なお、本事業は文部科学省、令和 6 年度「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」（AIの活用による英語教育強化事業/AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業）の採択を受け、実施する。

【主な取組内容】

- A AIを活用した英語授業モデルの構築
- イ 英語授業改善推進委員会（年 3 回）の実施
- ウ モデル校授業発表会の開催
- エ AI英語活用リーダーによる授業実践研究の推進



① 令和 7 年度宿泊体験型英語プログラム（イングリッシュキャンプ）と第 8 回福岡県中学生英語スピーチコンテストの連動

○福岡県中学生英語スピーチコンテストを各地区の大会から組織、運営を行い各教室でスピーチ等の言語活動の充実を図っている。今回はイングリッシュキャンプにおいて、プレスピーチコンテストを行い、上位入賞者 2 名に県大会への出場権を与える。両コンテストに関連し、各学校の英語教員が出場生徒を指導することで、専門性の向上につなげたり、英語能力に関する外部試験受験の意欲を高めたりする。

② 令和 7 年度外国語科（英語）授業力向上実践講座の実施

○昨年度に続き、標記講座を実施し、学習者用デジタル教科書の活用についてさらに周知を図る。本年度も、第 1 回研修では学習者用デジタル教科書を活用した公開授業を通して、活用方法についてイメージをもち、受講者の実践へとつなげる。第 2 回研修におけるグループ協議は「研修観の転換」に伴い、少人数グループによる対話を通じたビデオカンファレンスへと改善する。

令和 7 年度 福岡県 英語教育改善プラン

目標

- CEFR A2/B1 レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
R6 : A2以上51.5%、B1以上22.0% ⇒ R7 : A2以上57.5%、B1以上26.0%
- 授業中、50%以上の時間、生徒が言語活動を行っている学校の割合
R6 : 59.0% 目標値50.0を達成 ⇒ R7 : 53.0%

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①授業中、50%以上の時間、生徒が言語活動を行っている学校の割合

R5:40.3% R6:59.0% R6全国平均 56.6%

②授業中、教員が発話の50%以上を英語で行っている学校の割合

R5:18.9% R6:47.7% R6全国平均 41.6%

①CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合

R5:49.6% R6:51.5% R6全国平均 51.6%

②CEFR B2レベル相当以上を取得している教員の割合

R5:85.0% R6:82.6% R6全国平均 82.2%

③パフォーマンステストを実施している学校の割合

R5:31.4% R6:33.9% R6全国平均 49.7%

2. 要因分析

①ALTスペシャリストやネイティブ英語教員（NET）の外国人材による公開授業及び研究協議等の実施による英語授業等の改善・充実が要因の一つと考えられる。

②教育課程研究集会や外国語指導助手等の指導力等向上研修において教師の英語使用に関する講義・協議を行ったことが改善・充実の要因の一つと考えられる。

①言語活動を中心とした技能統合型の指導方法等の情報共有を各種研修会等で実施しているが、学校間で認識のずれがあり、差が見られる。

③新規採用教員など資格・検定の未保有者に向けて英語資格・検定試験の特別受験制度の活用を促せていない。

②評価の中で定期考査の比重が高い学校が多く、観点別による評価方法がまだ定着していないことが要因の一つと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①外国人材の活用の更なる推進
 - ・ALTスペシャリストによる英語イマージョン教育の推進及びネイティブ英語教員（NET）によるコミュニケーション能力育成重視の英語授業の展開
 - ・ALT研修会や外国語指導助手等の指導力等向上研修における生徒の言語活動充実に向けた授業方法の共有
- ②英語指導力向上に向けた研修会の実施
 - ・英語科主任等対象の指導力改善に係る研修会の実施
 - ・大学教授等の有識者による授業改善に関する研修会の実施
 - ・「実践的オンライン研修」事業の計画的受講の奨励
- ①新学習指導要領で求められる英語指導の徹底
 - ・1人1台端末を活用した、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の奨励
 - ・ALTスペシャリストやNETの公開授業における研究協議の更なる活用
 - ・ICTや外国人材の活用による言語活動の充実化
 - ・「福岡から世界へ」人材育成プロジェクトの継続実施 → 
- ②英語資格・検定試験の特別受験制度の更なる周知
 - ・各研修会において、特別受験制度の活用を促す。
- ③言語活動を中心とした技能統合型の指導及び発信力強化に向けた評価の推進
 - ・各種研修において、パフォーマンステストの効果的な実施方法の情報共有
 - ・パフォーマンステストにおける外国人材の効果的な活用の奨励
 - ・生成AIの活用に関する研究奨励

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

福岡県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	53.5	49.6	55.0	51.5	57.5		60.0		60.0	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	23.0	22.0	24.0	22.0	26.0		28.0		30.0	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	50.0	40.3	50.0	59.0	53.0		56.0		60.0	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	42.0	31.4	42.0	33.9	46.0		50.0		55.0	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	95.6	100		100		100		100
		公表(%)	100	84.2	100		100		100		100
		達成状況の把握(%)	100	60.5	100		100		100		100
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	78.0	83.7	87.0	82.6	88.0		89.0		90.0	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	50.0	18.9	50.0	47.7	52.0		54.0		55.0	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	54	51.3	56	62.6	62.8		63		64	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	95	85.1	98		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	98.8	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	99.5	100		100		100		100
		達成状況の把握(%)	100	99.5	100		100		100		100
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	35.9	50	44.8	50		50		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	95	71.4	95		95		95		95	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	98.6	100		100		100		100
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100